



松戸で育った洋画家『板倉鼎・須美子書簡集』を刊行

松戸で育った洋画家、板倉鼎（1901～1929）とその妻、須美子（1908～1934）は、1920年代後半、エコール・ド・パリ全盛期のフランスに留学しましたが、多くのすぐれた作品を残し、昭和初年に20代の若さで相次いで世を去りました。その短くも比類ない画業は、松戸市立博物館、目黒区美術館などの近年の展覧会を通じて大きな反響を呼びました。

このたび松戸市教育委員会は、1926（大正15・昭和元）年から1929（昭和4）年までの3年余りの留学中を中心に、夫妻が松戸の鼎の家族に宛てて書き綴った約370通の書簡を活字化して年代順にまとめ、書簡集として出版いたしました。

1. 『板倉鼎・須美子書簡集』刊行の主旨

20世紀前半のパリに世界各国から集まった画家たちは、「エコール・ド・パリ」と総称されています。この時代、日本からも大勢の画家たちが渡仏しました。松戸ゆかりの洋画家、板倉鼎（1901～1929）・須美子（1908～1934）夫妻も、1926（大正15）年から1929（昭和4）年までフランスに留学しましたが、鼎は多くの優れた作品を残して1929（昭和4）年、急病のため28歳でパリに客死しました。鼎の指導によりパリで油絵を始め、すぐに豊かな才能を現して高く評価された須美子も、帰国後に25歳の若さで病没しています。

画家として大成する前に夭折してしまっただけでなく、板倉夫妻の存在は広く知られることなく長らく埋もれていましたが、近年、松戸市教育委員会が板倉夫妻の遺族所蔵作品・資料の収集を進め、展覧会で公開してきました。展覧会は大きな反響を呼び、再評価の機運が高まっています。

3年間の留学中に板倉夫妻が松戸の家族に宛てて書き送ったたくさんの書簡が、松戸の板倉家に長年大切に保管されてきました。それらの書簡には、夫妻の日々の生活や制作活動についての報告のほか、藤田嗣治、佐伯祐三、岡鹿之助らをはじめ、当時パリで活動し、夫妻が親交を結んでいた日本人画家たちの動静等も記されています。

松戸市教育委員会は、板倉夫妻の生涯と作品研究の基礎資料とするため、また夫妻を含むエコール・ド・パリ研究に資するため、長年をかけてこれらの貴重な書簡を活字化し、書簡集として刊行しました。



2. 板倉鼎・須美子の略歴

(1) 板倉 鼎 (いたくら・かなえ) 1901～1929

1901年3月26日、埼玉県に生まれる。

小学生のときに松戸に転居。

1918年、千葉県立千葉中学校（現千葉県立千葉高等学校）卒業。在学中、堀江正章に油彩画を学ぶ。

1924年、東京美術学校（現東京藝術大学）西洋画科卒業。同校では岡田三郎助、田辺至に学び在学中より帝展入選。

1925年、昇須美子と結婚。

1926年、ハワイ経由でフランスに留学。3年あまりパリで過ごし、サロン・ドートンヌ、サロン・ナショナル入選。サロン・デ・ザンデパンダン、仏蘭西日本美術家協会展出品。

1929年9月29日、敗血症によりパリで急逝（享年28）。

(2) 板倉 (昇) 須美子 (いたくら〈のぼり〉・すみこ)

1908年6月28日、東京に生まれる。父はロシア文学者・昇曙夢(のぼり・しよむ)。

1921年、文化学院創設とともに入学。

1925年、文化学院中学部卒業。板倉鼎と結婚。

1926年、鼎とともにハワイ経由で渡仏。3年あまりパリに住む。

1927年、パリで油彩画を始め、同年より3年連続サロン・ドートンヌ入選。仏蘭西日本美術家協会展出品。

1929年、鼎の急逝後帰国。

1931年ごろ、昇家に復籍。このころ有島生馬に学ぶ。

1933年、美術団体「新油絵」の結成に参加。

1934年5月10日、肺結核のため死去（享年25）。

3. 書簡集の基本情報

- (1) 発行所 松戸市教育委員会
- (2) 発行日 2020（令和2）年3月26日
- (3) 大きさ A5判
- (4) 総頁数 872頁
- (5) 定価 4,300円
- (6) 発行部数 500部
- (7) 監修 川崎キヌ子氏（和洋女子大学名誉教授）
- (8) 編集 田中典子（松戸市教育委員会社会教育課美術館準備室）
- (9) DTP キュリオ・エディターズ・スタジオ（刊行業務委託先）
- (10) 構成 口絵、凡例、書簡本文、註、解説、年譜、主要人物略歴・索引



4. 書簡集刊行までの経過

平成 3～4 年度	板倉家作品・資料悉皆調査（作品 1,607 点、資料 6,307 点）
平成 5 年度	書簡集本文活字化作業開始
平成 28 年度	書簡集に収録した書簡の原資料を板倉家より寄贈
令和 2 年 3 月 26 日	書簡集刊行

5. 収録書簡の概要

- (1) 点数 371 通
- (2) 年代 大部分は 1926～1929 年、ハワイとパリからのもの。
鼎の書簡 1922 年～1929 年 9 月
須美子の書簡 1925 年～1932 年ごろ
- (3) 差出人 板倉鼎、板倉（昇）須美子
- (4) 宛て先
大半は松戸に住む鼎の両親と妹に宛てたもの（妹への書簡の一部は在学していた自由学園宛て）。その他の宛名の、あるいは宛名が書かれていない未投函の書簡等が一部含まれます。
- (5) 主な内容
日々の生活、パリで生まれた娘が発育していく様子、旅先での見聞、制作に関する考察、展覧会への出品などの報告を、鼎と須美子が代わる代わる筆まめに書いています。また、同じ時期にパリにいた日本人の画家たちとの交流や彼らの動静も記されています。

6. 購入方法のご案内

販売開始 6 月 15 日（月）を予定しています。

- (1) 取扱店等（事前に休業日や営業時間の変更の有無、在庫等をお電話でご確認ください。）

良文堂書店 松戸店（松戸駅東口前）☎047-365-5121（2020 年 7 月 1 日より）

スモークブックス 千葉みのり台店 ☎047-705-0816

藝大アートプラザ（東京藝術大学美術学部構内）☎050-5525-2102

松戸市立博物館 ☎047-384-8181

松戸市行政資料センター（松戸駅東口より徒歩 9 分、松戸市役所別館 1F）
☎047-366-7107

松戸市教育委員会社会教育課（松戸駅東口より徒歩 10 分、京葉ガス F 松戸ビル 6 階）☎047-366-746



(2) 通信販売

インターネットの下記サイトでご案内しています（別途送料が必要です）。

①スモークブックス ウェブショップ <https://www.smokebooks.net>

②松戸市デジタル美術館（松戸市公式サイト内）



QR コード

7. 板倉鼎・須美子を取り上げた近年の展覧会

(1) 「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」

2015（平成 27）年 10 月 10 日～11 月 29 日、松戸市立博物館

主催：松戸市教育委員会

出品点数：154 点

(2) 「よみがえる画家 板倉鼎・須美子展」

2017（平成 29）年 4 月 8 日～6 月 4 日、目黒区美術館

主催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

特別協力：松戸市教育委員会

出品点数：168 点

(3) 聖徳大学・聖徳大学短期大学部、松戸市・松戸市教育委員会共同企画展「フジ タとイタクラ エコール・ド・パリの画家、藤田嗣治と板倉鼎・須美子」

2019（平成 31）年 1 月 16 日～3 月 16 日、聖徳博物館

主催：聖徳大学・聖徳大学短期大学部、松戸市・松戸市教育委員会

出品点数：30 点

- ◆ 令和 2 年 7 月 23 日（木・祝）から 8 月 30 日（日）まで市立博物館企画展示室において、板倉夫妻の作品を含む所蔵作品展「松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション」を開催する予定です。

詳細は後日、情報提供いたします。



8. 板倉鼎・須美子作品・資料点数（松戸市教育委員会所蔵）

		鼎	須美子	連名	合計
作品		100	26		126
資料（作品に準ずるもの）		110	11		121
二次資料	書簡	330	156	12	498
	その他の文書	0	7	1	8
合計		540	200	13	753

【問い合わせ先】

生涯学習部社会教育課 ☎047-366-7463



【参考】用語・人名解説 (50音順)

(1) 用語

【エコール・ド・パリ】

フランス語で「パリ派」の意。1920年代を中心に芸術の都パリに集まった、主に外国人の美術家たちを総称する言葉。特定の流派があるわけではないが、民族的・文化的背景を感じさせる作品が多い。シャガール、モディリアーニ、藤田嗣治、スーチン、キスリングらが代表的な作家として知られる。

【サロン・デ・ザンデパンダン】

フランスの美術展のひとつ。1884年のサロンに落選した画家たちや反アカデミズムの画家たちが組織した団体により開催され、今日まで存続している。無審査無賞を原則とし、所定の会費を払えばだれでも出品できる。

【サロン・ドートンヌ】

フランスの美術展のひとつ。「秋の展覧会」の意。1903年に創設され今日まで存続している。毎年秋に開催される。

【サロン・ナショナル】

フランスの美術展のひとつ。1890年、フランスの最も古く伝統的な展覧会であるサロン・デ・ザルティスト・フランセから分離して成立した。

【新油絵】

1933年、二科会の新傾向絵画を推進する若手の画家たちを中心に結成された団体。同年と翌年に2回展覧会を開催した。

【帝展】

帝国美術院（1919年に創設され、文部大臣の管理下にあった美術に関する諮問機関）が主催した官設美術展。1919年から35年まで行われた。

【仏蘭西日本美術家協会展】

1929年、フランスに在住する日本人の美術家たちにより、藤田嗣治を会長として仏蘭西日本美術家協会が結成された。その主催によりこの年4月にパリで、6～7月にブリュッセルで、10月にパリで2回目の展覧会が開催されたが、その後同協会は崩壊した。

【文化学院】

1921年、西村伊作が石井柏亭、与謝野寛・晶子の協力を得て東京・神田駿河台に創設した私立学校。学校令に縛られない自由な教育を目指し、あえて各種学校とした。2018年に閉校した。



(2) 人名

【有島生馬】（ありしま・いくま、1882～1974）

洋画家。神奈川県に生まれる。兄の有島武郎、弟の里見弴は小説家。藤島武二に師事。1905年渡欧。イタリア、フランスで学び1910年帰国、雑誌『白樺』の創刊に参加。1914年二科会創立に参加したが35年帝国美術院会員に挙げられ脱退。1964年文化功労者。文筆もよくした。

【岡鹿之助】（おか・しかのすけ、1898～1978）

洋画家。東京に生まれる。1924年東京美術学校西洋画科卒業、渡仏。1925年藤田嗣治の勧めでサロン・ドートンヌに出品し初入選。1926年サロン・デ・ザンデパンダン、29年サロン・デ・チュイルリー出品。日本人美術家たちの展覧会にも参加している。1939年第二次世界大戦勃発により帰国、その後は春陽会で活動した。1972年文化勲章受章。

【岡田三郎助】（おかだ・さぶろうすけ、1869～1939）

洋画家。佐賀県に生まれる。1887年より曾山幸彦に、その死後堀江正章に洋画の指導を受ける。1894年黒田清輝、久米桂一郎の天真道場に入門。1896年白馬会創立に参加、東京美術学校に新設された西洋画科助教授に就任。翌年西洋画研究のため第一回文部留学生として渡仏、コランに師事。1902年帰国、東京美術学校教授。1936年東京美術学校長事務取扱、37年文化勲章受章。

【佐伯祐三】（さえき・ゆうぞう、1898～1928）

洋画家。大阪に生まれる。東京美術学校西洋画科在学中に池田米子と結婚。1923年同校卒業、渡仏。里見勝蔵の紹介でヴラマンクを訪ね、フォーヴィスムの影響を受ける。1925年ユトリロ展に感動しパリ下町の情景を描くようになる。同年サロン・ドートンヌ入選。1926年帰国、一九三〇年協会の結成に参加、二科展に滞欧作を特別出品し二科賞受賞。1927年に再渡仏、翌年客死。

【田辺至】（たなべ・いたる、1886～1968）

洋画家、版画家。東京に生まれる。哲学者田辺元は兄。1910年東京美術学校西洋画科卒業。1919年同校助教授、28～44年教授。1922年文部省在外研究員として渡欧、24年帰国。文展、帝展で活動したが戦後は団体に属さなかった。油彩画のほか早くから銅版画を制作した。

【昇曙夢】（のぼり・しょむ、1878～1958）

ロシア文学者。鹿児島県奄美大島に生まれる。本名昇直隆。1903年ニコライ正教神学校卒業。母校講師、陸軍士官学校教授、早稲田大学講師、日本大学講師等を歴任。ロシア近代主義文学やソヴィエト連邦の文芸理論の翻訳・紹介に努めた。第二次世界大戦後は故郷奄美の日本復帰運動に尽力した。主著『ロシヤ・ソヴェト文学史』（1955年）で芸術院賞受賞。板倉（昇）須美子は長女。



【藤田嗣治】（ふじた・つぐはる、1886～1968）

洋画家。東京に生まれる。1910年東京美術学校西洋画科卒業。1913年渡仏。1919年サロン・ドートンヌ初入選。白い下地と細い線描による独特の様式をつくりあげ「素晴らしき乳白色の下地」と絶賛される。1923年サロン・デ・チュイルリー会員、25年フランス政府からレジョン・ドヌール勲章を、ベルギー政府からレオポルド一世勲章を受章。1929年帰国、30年南米諸国訪問。1939年の邦人引き揚げまで日本とフランスを行き来する。第二次世界大戦中は従軍画家として戦争画を制作、終戦後批判を浴びる。1949年アメリカ経由でパリに戻り、55年フランス国籍を取得。1959年レオナール・フジタと改名した。

【堀江正章】（ほりえ・まさあき、1858～1932）

洋画家。信州に生まれる。1878年上京、工部美術学校に入学しサン・ジョヴァンニの指導を受ける。1883年同校廃校後、同窓の曾山幸彦の私塾で教え、曾山の死後は私塾を継承して岡田三郎助らを指導。1897年より晩年まで千葉県立千葉中学校で図画教師を務める。

板倉鼎・須美子書簡集 目次

口 絵

書 簡 7

凡 例 8

1925 (大正14)年まで 9

1926 (大正15／昭和元年)年 21

1927 (昭和2)年 207

1928 (昭和3)年 455

1929 (昭和4)年 641

1930 (昭和5)年～1932 (昭和7)年頃 793

註 812

解説・年譜・索引 817

板倉鼎・須美子とその書簡——田中典子 819

板倉鼎・須美子年譜 830

板倉家・昇家系図 840

編者あとがき 841

主要人物略歴・索引 856

ヨコンと立っていると思ひます。胸の上にFLIXとしてありますよ。

お兄さんの展覧会、五月中頃でせう。未だ会場は皆さんが一緒によい所を決めて下さるのです。

五日ばかり前新聞で色々ホノルルの人にまた紹介しました。新聞といへばホノルルには夕刊しかありません。記事がないのでせう。高橋のおおさんがフランスへいらした時のお話をうかがふ度に早くこゝをあたたいと思ひます。米人には少しも深い芸術の頭ありませんから。

ではまた書きますけれど今日はサヨナラ、サヨナラ

今船が出ます。大急ぎです。

一三日前お手紙二種前後して参り後のガクブチ云々の事あり、一向わけがわかりませんでしたのですぐ電報を打って置きましたが、今からではどうせ間に合はず已に送つてあるものなら展覧会にフチを作ると無駄になりますので困つて居ります。未だ電報の返事も来ません。

前に申し上げましたとおり大分距離もあります事故問ひ合せは非常にゆつくりした場合の手紙とよくくの場合の打電の他は一寸迷ふだけで困ります。今月半ばに展覧会を致しますが今になってフチを作る事も出来ず後も来ず迷つて居なければなりません。

五月一日横浜発の船は九日か十日にホノルルに参りますので若し電報の返事がありません時はそれまでだけ待

50

封書 文末5月3日 消印 1926年5月3日
 松戸、板倉打太郎、勝子宛 ホノルル、鼎

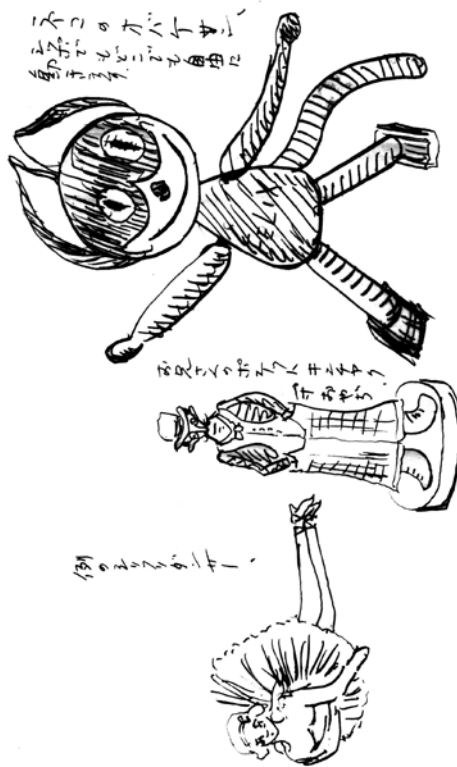
もう室中どこをみても画だらけで小サイ会場みたいです。それに室の構造が一度画をかけるのによく出来てますから。日本から荷がつきますと他の方も手伝つて家のからつぽの自動車^チで汗をながして幾度も家へチリ払ひながら運び夜八時頃すっかりお兄さんとキチンとがざつてしまひました。

お兄さんは夕飯すむとお風呂が一つぼいになるまで画の前に腰かけていつまでもながめてます。

私が一寸でもそばへいつたらしかられて大変ですからまあ小さくかしてまつて一緒にながめてます。

あの大きな果実の静物をみるとお二階がうかんで来ます。そしてよく私はすみにゴミを少しづつためてましたつけ。もうゴミのたまらない家を考へませう。私は障子のサンのゴミが一等いやです。

弘子さんあのお人形の本箱ではみんなお人形が笑ひながら居るでせうか。日本へ帰るまでにはなるべく変つた面白いお人形を所々で買つたり自分でもつくつてみたりしてたくさんお土産を持つてきますよ。今、真赤な鼻のトガッタ小人のおじさんと、黒ん坊のダンサー娘と、ネコサンのおばけ(フェリックス)^(註)をためました。フェリックスは多分お送りしたシャシンのベッドの上かにエバリクサツテ、チ

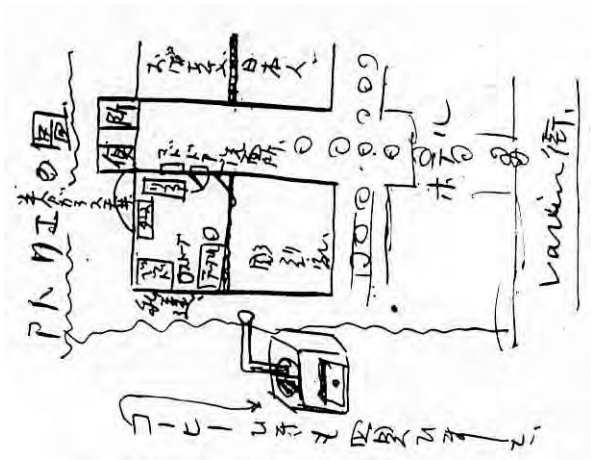


例のシリフリダンサー、

お兄さんのボケットキートンチャク

一寸おやぢ

ネコのオバケサン、
 シツボでもどこでも自由に動きます。



トト茶わんも二人のだけ、好いのを買いました。お鍋はもう少しで、買ひます。石油らんぷのトテモ、がんばりなのをかひました。女の日本人が、居りませんから、みんな男の人がそらいふ事に、くわしいので、一寸おかしくなります。アトリエへ移りましたら、鳥を二羽ほしいと思つて居ります。五銭位でかへます。それから、淋しくない様にラヂオの耳にあて、聞きますのを今日、おとくになつたラヂオ屋から、買つてまゐりました。

今居りますパックスホテルでも、森田先生の室にも、澤藤さんの室にもラヂオをおひきになりました。

フランス人の日本人にたいする親切はほんとに感じ

て居りますが、また、こちらに居る日本人は、知識階級の人とか上流の、人ばかりですから、自然、れい儀が好いのでフランス人は日本人に、敬意をはらひます。後から来る日本人は、ほんとに助かります。また、フランス人の女は、えほらないで、家庭的なところがございませう。ですから、日本人でも、支那人でもフランス人を奥さんにしてる人がずいぶん、ございませう。それに、日本人の男を好む、或るフランス人の女もございませう。

こちらでは日本で名の知れてる方ばかりにお目にかゝる時が多く、日常のお話しが、もう、普通人とはちがひます。もう、ほとんど、男の方ばかりしか、日本人では居りませんから、余程、シツカリして少し、ガンコな様子をとらないと、トテモ、弱さを見つけれはは大変でございませう。

では、今日はこれで、次に、アトリエの生活をお知らせ致します。

すみ子、

巴里はほんとに、芸術家の天国の様に、
画についての何物も、たやすく、得る事が出来、
他でみられない物を見る事が出来ます。
ほんとに、私達は、感謝して居ります。
ほんとに、一生懸命、見てもみつけないこの芸術を、
なるべく、多く、見、自分の勉強を高める
心が起つてまゐります。その代り、又、一方、自分は、
バカで小さくてしょうがない気が致します、

90

封書 潜印 26年
松戸、板倉勝子・弘子宛 パリ、鼎

何と書きはじめてよいかわかりませんがとにかく私も巴里になれまして、どこからどこまで用が足りるやうになりました。

アトリエも見つかりました。

それよりも忘れてましたが二人とも無事でございませう。

毎日私は午前中をアカデミ（日本の研究処の上等な）で勉強し午後をアトリエ探しと展覧会、博物館等を見るのについでやしてました。

画像一覧



1 板倉鼎《画家の像》
1928年



2 板倉須美子《午後 ベル・ホ
ノルル12》
1927~28年頃



3 板倉鼎・須美子 1926年頃



4 板倉鼎・須美子、長女とマダ
ム・テツパ 1928年



5 板倉 鼎



6 板倉 須美子



7 須美子の書簡(弘子宛て)(書
簡49)
1926年4月30日付



8 鼎と須美子の書簡(両親宛
て)
(書簡306、307)
1929年3月6~7日



9 鼎の書簡(両親宛て)
(書簡305)
1929年3月4日

所蔵:

1、2、7、8、9 …… 松戸市教育委員会
3、4、5、6 …… 個人蔵

板倉鼎・須美子 書簡集



待望の『板倉鼎・須美子書簡集』
ついに出版！

20代の若さで世を去ったエコール・ド・パリの画家、板倉鼎・須美子夫妻の短くも比類ない画業は、近年松戸市立博物館、目黒区美術館などの展覧会で紹介され、大きな反響を呼びました。ふたりが3年間のフランス留学中に書き綴った300余通の書簡を通じて、作品成立の背景——1920年代後半のパリに生きた画家たちの日々がよみがえります。

A5判・872頁 定価 4,300円 発行 松戸市教育委員会

監修
編集

川崎キヌ子

(和洋女子大学名誉教授)

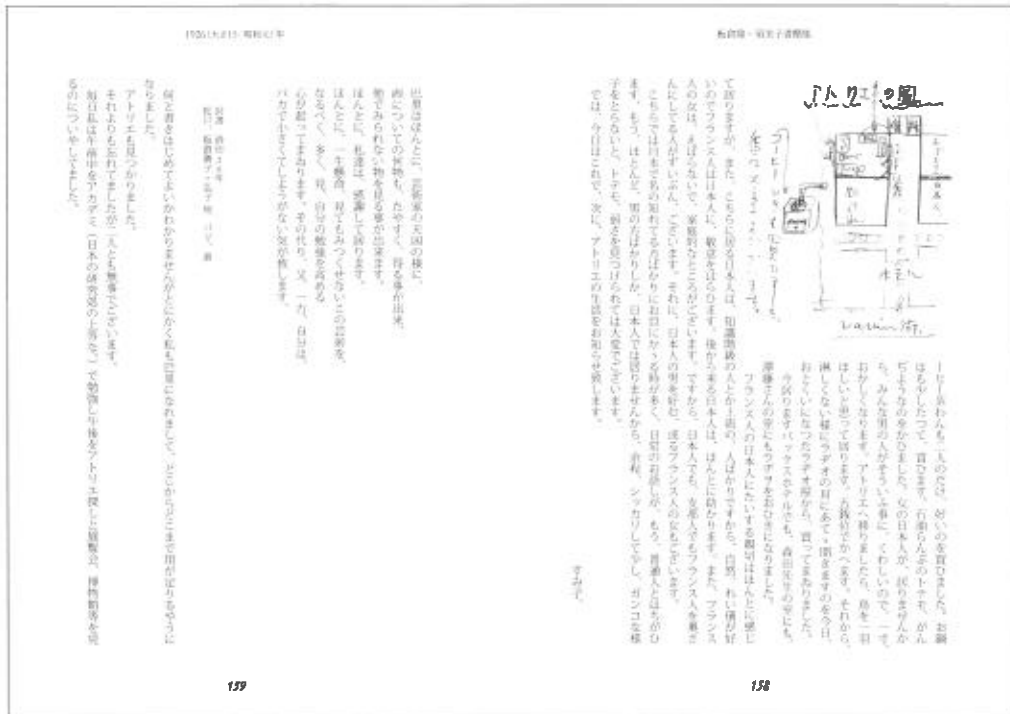
田中典子

(松戸市教育委員会社会教育課美術館準備室)



板倉(昇) 須美子 いたくら(のぼり) すみこ
 1908年東京に生まれる。父はロシア文学者・昇隆。1921年文化学院制敵とともに入学。25年中部卒業。同年板倉鼎と結婚し、翌年ハワイ経由で渡仏。1927年パリで油彩画を始める。サロン・ドートンヌ入選。仏蘭西日本美術家協会展出品。1929年鼎の急逝後帰国。有馬生馬に学ぶ。美術団体「新油絵」の結成に参加。1934年病没(享年26)。

板倉鼎 いたくら かなえ
 1901年埼玉県に生まれる。小学生のときに松戸に転居。千葉県立千葉中学校で堀江正章に油彩画を学ぶ。東京美術学校西洋画科で岡田三郎助、田辺至に学び在学中より帝展入選。1924年同校卒業。翌年昇須美子と結婚。1926年ハワイ経由で渡仏。サロン・ドートンヌ、サロン・ナショナル入選。サロン・デ・ザンデパンダン、仏蘭西日本美術家協会展出品。1929年急病によりパリで客死(享年28)。



解説・年譜・索引
 板倉鼎・須美子とその書簡 田中典子
 年譜
 板倉家・昇家系図
 編者あとがき
 主要人物略歴・索引

目次
 口絵
 書簡
 凡例
 1925(天正14)年まで
 1926(天正15/昭和元年)
 1927(昭和2)年
 1928(昭和3)年
 1929(昭和4)年
 1930(昭和5)年/1932(昭和7)年頃

本文より「鼎と須美子の言葉
 昨日から鼎さん、金魚の静物を始めてお
 ります。前から金魚が描きたいと申して
 おりましたが、売って居る店がみつかり
 ませんので断念いたしておりましたとこ
 ろ、セーヌ河岸にやつとみつけて買って
 まいりました。多分日本から来ましたの
 でしょう。二人きりのところへ金魚が
 たった五匹ばかりふえましたのですけれ
 ど、だいお淋しさがうすらぎます。
 (書簡より 1927年11月16日、須美子の書簡より)

仕事の良否は別として新しいという事は
 大きな力であるようです。歴史のどの時
 代においてもその時代を代表するほどの
 作品は常にその時代における新しいもの
 だったようです。パリは保守的な国民の
 都でありながら不思議と新しい運動のあ
 るところなのです。
 (書簡より 1928年11月28日、鼎の書簡より)

- ◆取扱店等 (事前に休業日、営業時間、在庫等をお電話でご確認ください)
 良文堂書店松戸店 (松戸駅東口前) TEL 047-365-5121 (2020年7月1日より)
 スモークブックス千葉みのり台店 TEL 047-705-0816
 藝大アートプラザ (東京藝術大学美術学部構内) TEL 050-5525-2102
 松戸市立博物館 TEL 047-384-8181
 松戸市行政資料センター
 (松戸駅東口より徒歩9分、松戸市役所別館1F) TEL 047-366-7107
 松戸市教育委員会社会教育課
 (松戸駅東口より徒歩10分、京葉ガスF松戸ビル6階) TEL 047-366-7463

◆通信販売 (別途送料が必要です)
 インターネットの下記サイトでご案内しています。
 スモークブックス ウェブショップ
<https://www.smokebooks.net>
 松戸市デジタル美術館
 (松戸市公式サイト内)

※以下の申込書にご記入のうえファックスでもご注文いただけます。またはお電話でお問い合わせください。
 ご購入方法や送料についてご案内いたします。松戸市教育委員会社会教育課 (TEL 047-366-7463 FAX 047-366-7055)

申込書

FAX 047-366-7055 松戸市教育委員会社会教育課行

板倉鼎・須美子書簡集 定価：4,300円 [] 部 申し込みます

お名前 _____

ご住所 〒 _____

日中にご連絡のとれるお電話番号